



# 日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和8年 7月1日

第 4 号

さいたま市立日進中学校

TEL 048-663-1251

FAX 048-663-0834

## 見えない一つと「足るを知る心」

校長 長岡有実子

先日の修学旅行で、三年生の生徒たちは京都の龍安寺を訪れました。龍安寺といえば、世界的にも有名な石庭が知られています。白砂の上に十五の石が配されていますが、不思議なことに、どの位置から眺めても必ず一つの石が他に隠れ、十四個にしか見えないように作られています。

私が以前この寺を訪れた際、案内の方から印象的なお話を伺いました。それは、「本来あるはずの一つが見えない」という状況を通して、「当たり前にあるものの大切さ」に気付くための仕掛けである、というものでした。私たちの周りには、家族や友人、日々の生活など、失って初めてその価値に気付くものが数多くあります。この石庭は「もしそれが失われたらどう感じるだろうか」と想像させることで、今ある幸せに目を向けさせてくれるのです。

そして、その先にあるのが「知足の蹲踞（つくばい）」です。中央の四角を口に見立てて読むと「吾唯足知（われただ足るを知る）」、すなわち「今あるもので満ち足りていることを知る」という意味になります。これは仏教の教えである「知足の者は貧しといえども富めり」に通じる心です。

目に見えない「足りない一つ」を感じた後に、「足るを知る」という言葉に出会う。この一連の流れには、「無いものを嘆くのではなく、今あるものの尊さに気付く」という深い教えが込められているように思います。

日々の生活の中で、私たちは知らず知らずのうちに「当たり前」に囲まれています。しかし、その当たり前は決して当然のものではありません。今ある環境や人とのつながりに感謝し、「足るを知る心」を大切にしていきたいものです。

六月は、修学旅行をはじめ、未来くるワーク体験や校外調査活動など、すべての学年にとって貴重な学びの機会がありました。そこで得た経験が、生徒一人ひとりにとって自分の身の回りを見つめ直し、日々を大切に生きるきっかけとなることを願っています。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校